

令和3年度 学校評価に関わるアンケート集計結果

令和4年 2月18日
宮城県中新田高等学校

1 アンケート調査期日と回収率

対象者	実施日	回収率
生徒	※共通	95% (254/267人中)
保護者	12月3日(金)～12月15日(水)	92% (246/267人中)
教職員	Web回答により実施	94% (29/31人中)

2 結果詳細

- <資料1> 令和3年度 三者(生徒・保護者・教職員)比較グラフ
- <資料2> 令和3年度 学校評価に関わるアンケート集計
- <資料3> 令和3年度 「重要度」「実現度」「ニーズ度」比較
- <資料4> 令和3年度 アンケート自由記述

3 共通項目 結果一覧 (実現度)

(数字は肯定的評価の値 単位 %)

	項目	生徒		保護者		教職員	
		R2	R3	R2	R3	R2	R3
1	進路に応じた教育課程編成	86	85	77	81	94	90
2	意欲を引き出す授業	72	78	64	71	88	90
3	家庭学習の定着	39	39	43	50	56	66
4	充実した朝読書の推進	81	86	52	60	69	90
5	生活指導の方針明確	76	75	73	77	91	76
6	基本的な生活習慣の指導	84	85	71	74	75	83
7	進路目標の明確化	83	84	73	77	84	86
8	進路情報の提供	83	85	70	74	88	83
9	進路ノートを活用	66	63	58	63	53	55
10	教育相談体制	82	76	61	65	88	90
11	部活動が活発	88	81	73	77	78	66
12	部活動の休養日設定	75	66	70	76	88	71
13	生徒会活動が活発	77	74	62	67	66	86
14	有意義な学校行事	79	76	67	70	75	93
15	特色ある学校づくり	74	71	64	67	69	72
16	災害時の避難・連絡	90	91	64	78	75	86
17	学校の情報提供	88	82	73	87	84	100
18	校舎等の施設設備	73	78	52	66	72	62
19	清掃等の環境保全	86	65	65	57	88	86
20	いじめの早期発見	69	83	54	72	88	100
21	PTA・学校行事の連絡	82	64	65	52	53	97
22	学校生活の充実度	74	72	77	84		
	平均	77.6	75.4	64.9	70.2	77.2	82.3

4 共通項目概況

今年度の学校評価に関するアンケートは、宮城県教育委員会から指定されている評価項目(18項目)を本校の教育方針に照らし合わせて検討し、昨年度と同様に22項目について実施した。各項目の実現度について昨年度と今年度の経年比較を行った。

(1) 生徒アンケート

肯定的評価の平均は75.4%(前年比-2.2%)と、前年度と比べてやや下がっており、肯定的評価が70%以上の項目は、22項目中17項目(前年比-2)であった。

中でも「進路に応じた教育課程の編成」、「充実した朝読書の推進」、「基本的な生活習慣の指導」、「進路目標の明確化」、「進路情報の提供」、「部活動が活発」、「災害時の避難・連絡」、「学校の情報提供」、「いじめの早期発見」の9項目(前年比-2)で肯定的評価80%を超えている。また、肯定的評価が65%未満は「家庭学習の定着」、「進路ノートの活用」、「PTA・学校行事の連絡」の3項目(前年比+2)である。

なお、前年度と比べて大きく向上した項目は、「いじめの早期発見」(+14%)であり、下降した項目は、「部活動の休養日設定」(-9%)、「清掃等の環境保全」(-21%)、「PTA・学校行事の連絡」(-18%)、であった。

(2) 保護者アンケート

肯定的評価の平均は70.2%(前年比+5.3%)と数値が上がっており、肯定的評価が70%以上の項目は13項目(前年比+4)となった。「進路に応じた教育課程の編成」、「学校の情報提供」、「学校生活の充実」の3項目が80%を超えている(前年度は無し)。また、肯定的評価が65%未満は「家庭学習の定着」(前年比+7%)、「充実した朝読書の推進」(前年比+8%)、「進路ノートの活用」(前年比+5%)、「清掃等の環境保全」(前年比-8%)、「PTA・学校行事の連絡」(前年比-13%)の5項目(前年比-5)である。

(3) 教職員アンケート

肯定的評価の平均は82.3%(前年比+5.1)であった。肯定的評価が70%以上の項目は、21項目中17項目(前年比+3)であった。その中でも「進路に応じた教育課程編成」、「意欲を引き出す授業」、「充実した朝読書の推進」、「進路目標の明確化」、「教育相談体制」、「生徒会活動が活発」、「有意義な学校行事」、「災害時の避難・連絡」、「学校の情報提供」、「清掃等の環境保全」、「いじめの早期発見」、「PTA・学校行事の連絡」の12項目が85%を超えた。

また、肯定的評価が70%未満の項目は、4項目(前年比-2)であり、「家庭学習の定着」、「進路ノートの活用」、「部活動が活発」、「校舎等の施設設備」である。

特徴的な点として「PTA・学校行事の連絡」の項目が、前年比で生徒(-18%)・保護者(-13%)とも大きく数値を落としている一方で、教職員は97%と高い数値を示しており、評価に乖離が見られる。今年度は学校メールを活用して情報発信の方法を工夫したことが奏功し、「学校の情報提供」の項目では生徒・保護者とも高い評価をいただいた(82%、87%)ことから、学校側で発出した連絡が届いていないということではないと思われる。しかし、コロナ禍の影響で行事そのものが中止・縮小傾向にあり、そもそも連絡自体少ない事、そこからPTAや学校の動きが見えづらくなったことが影響していると推察される。コロナ禍で先の読めない状況であるからこそ、教職員は「実施・中止」のお知らせだけでなく、見通しや準備状況など、少しでも不安に応える形の情報発信に努めなくてはならない。

5 ニーズ度算出からのまとめ

(1) アンケートの実施について

今年度のアンケートも、昨年同様にそれぞれの項目に対して実現度だけでなく重要度も回答してもらった。重要度と実現度に関してはアンケート結果に対して次のような点数化を行い、各項目の「重要度」「実現度」「ニーズ度」を算出した。

重要度	重要である	やや重要である	あまり重要でない	重要でない
点数	7	5	3	1

点数の和 ÷ 有効回答数 = 重要度

実現度	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
点数	7	5	3	1

点数の和 ÷ 有効回答数 = 実現度 重要度 × (8 - 実現度) = ニーズ度

「ニーズ度」は、重要度が高くて実現度が低いと高くなる。「ニーズ度」が高い項目は、**学校の課題と見なすことができる。**

(2) 「生徒」「保護者」「教職員」アンケートの三者比較概要 ※ () 内は令和2年度の値

	重要度平均値	実現度平均値	ニーズ度平均値
生徒	5.94 (6.02)	4.80 (4.81)	18.97 (19.15)
保護者	6.03 (5.96)	4.26 (4.09)	22.52 (23.52)
教職員	6.23 (5.94)	5.19 (4.81)	17.46 (18.89)

上記の表から、今年度のアンケート結果を見ると、生徒と保護者・教職員による重要度平均値は教職員・保護者・生徒の順であるのに対して、実現度平均値は教職員・生徒・保護者の順である。ニーズ度が三者の中で最も高いのは保護者であり、次に生徒・教職員の順となった。そこで、今回のアンケート結果から、三者のニーズ度の数値の高い項目から課題の割り出しを試みた。

(3) 「ニーズ度」から見た注意すべき項目(上位7項目)

<生徒>		質問項目	重要度	実現度	ニーズ度	
					R2年度	R3年度
21		学校は、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる。	6.32	4.20	22.58	24.02
12		部活動の休養日は、生徒・顧問の負担軽減のために適切に設定されている。	6.28	4.41	21.10	22.55
3		私は、毎日、予習・復習等の家庭学習に取り組んでいる。	4.95	3.50	25.26	22.28
19		校舎やグラウンドなどの施設や設備は整理されている。	6.17	4.39	20.90	22.27
22		私は中新田高校に入学してよかった。(学校生活は充実している。)	5.96	4.60	20.35	20.26
9		「進路ノート」を活用しLHRや総合の時間を使って効果的な進路指導が行われている。	5.52	4.33	20.33	20.26
10		教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができています。	6.04	4.69	18.09	19.99
平均			5.89	4.30	21.34	21.66

<保護者>		質問項目	重要度	実現度	ニーズ度	
					R2年度	R3年度
21		学校は、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる。	6.47	3.23	30.31	30.86
19		校舎やグラウンドなどの施設や設備は整理されている。	6.14	3.70	26.49	26.40
9		「進路ノート」を活用しLHRや総合の時間を使って効果的な進路指導が行われている。	5.96	3.70	26.15	25.63
10		教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができています。	6.10	3.86	25.27	25.25
3		お子さんは、毎日、家庭学習に取り組んでいる。	5.76	3.87	26.88	23.79
20		校舎内外をきれいにし、設備を大事に使っている。	6.16	4.15	24.97	23.72
13		生徒会活動は活発に行われている。	5.58	3.76	22.30	23.66
平均			6.02	3.75	26.05	25.61

<教職員>		質問項目	重要度	実現度	ニーズ度	
					R2年度	R3年度
3		生徒は毎日宿題、予習復習等の家庭学習に取り組んでいる。	6.24	4.38	22.10	22.59
9		「進路ノート」を活用しLHRや総合の時間を使って効果的な進路指導が行われている。	5.83	4.17	20.73	22.33
11		部活動は活発に行われている。	6.31	4.59	18.55	21.52
5		学校の生活指導の方針が明確に示されている。	6.45	5.00	17.77	19.35
19		校舎やグラウンドなどの施設や設備は整理されている。	6.45	5.00	20.81	19.35
6		挨拶やマナーなどの基本手生活習慣の確立に関する指導が行われている。	6.52	5.07	20.32	19.10
7		進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。	6.66	5.21	18.85	18.58
平均			6.35	4.77	19.88	20.40

- ・「いじめの早期発見」については、生徒・保護者の両方で数値が高くなっており、生徒が安心して学校生活を過ごせるために対応が欠かせない項目である。今年度も毎月、学校生活に関するアンケートの実施を通していじめの兆候が見つかり、解決した事例があるが、これらの取り組みは個人の特定を防ぎ、保護する観点から非公開で行われるという対応の不透明さがニーズ度向上の要因と考えられる。職員は生徒・保護者のニーズ度が高いことを十分に意識し、いつでも、誰にでも起こり得る案件であるとして生徒を注意深く観察し、分かる形でいじめへの対応に取り組む必要がある。継続して早期発見を心がけることに加え、いじめ防止に関する情報発信に努め、生徒・保護者との一層の共通理解に取り組まなければならない。
- ・「家庭学習の定着」は、5年連続して三者ともニーズ度が高い結果であったが、教職員のニーズ度が前年より高くなっていることに対して、生徒・保護者のニーズ度は下がっており、特に生徒の「重要度」が前年度より下がっている。学習の必要性や大切さを理解しているものの、家庭での主体的な取り組みは定着していない状況がうかがえる。「学ぶ意欲を引き出す授業」の評価はやや上がっていることから、教職員は学ぶ意欲を高める手立てを継続するとともに、家庭における学習方法の示し方を工夫していく必要がある。
- ・「校舎やグラウンドなどの施設や設備」についても、昨年に続き三者とも高い値となっている。西・南校舎は築45年以上経過し、各所で老朽化が進んでいるが、不具合等は随時対応すると同時に県へ予算措置を要求し、解決を図っている。今年度、各学級の教室へのエアコン設置や女子トイレの洋式化等の工事が完了し、更に部室棟の改築が引き続き進められている。生徒の「清掃等の環境保全」実現度が大きく下がっている事に留意しつつ、いまある設備を大事に使う意識を醸成したい。
- ・「進路ノートの活用」については、これまで生徒の数値がそれほど高くなっていなかったが、今回は三者で数値が高くなった。進路を意識した生徒を中心にLHRや総合的な探究の時間等様々な場面で活用していたが、コロナ禍により活動そのものがスリム化傾向にあり、活用場面が少なくなったこと、生徒手帳の使い勝手を改良し、システム手帳タイプに変更したこと等が複合的に影響したものと考えられる。活用する場面と内容を検討し、より実効性の高い使い方に改善していく必要がある。
- ・「学校生活の充実」については、今年度も昨年に続いて生徒の数値が高かった。実現度の数値が特段低くはなく、一定程度の充実感はあるものの、学校生活の中で中新田高校生としての充実感や有用感などが得られる機会をより欲していることがうかがえる。今年度も昨年度に続きコロナ禍により各種イベントが中止となったが、今後は更に地域と連携して、様々な取り組みを模索する必要があると考える。
- ・「学ぶ意欲を引き出す授業」はこれまで生徒・保護者の両方で高い値となっていたが、今回は上位に入らなかった。今年度はコロナ禍の影響でICTの整備・活用が進み、9/20には全校でリモート授業を試行するなど、生徒一人ひとりの学びを止めない具体の取り組みを行ったことが評価されたものと推察される。次年度は学校間ネットワークによる遠隔授業も予定されており、環境を最大限活用できるよう引き続き検証を重ねたい。

6 考察

共通項目結果及びニーズ度算出結果より、本校が問題意識を持って取り組むべき課題は、次の5点に集約されると考える。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1) いじめをさせない積極的生徒指導と保護者との共通理解 2) 生徒が主体的に家庭学習に取り組み、習慣化する働きかけ 3) 校地内の整備と安全・安心に生活できる環境の維持 4) 「進路ノート」の内容と効果的な活用方法の検討 5) 地域と連携した特色ある行事の再開・開発と丁寧な情報発信 |
|--|

7 自由記述より

保護者からは、「教師の指導の仕方・対応について」、「生徒の問題行動について」「学校行事について」、「学校の施設設備について」など貴重なご意見をいただいた。

特に「問題行動への対処」と「教員の対応」については、複数のご指摘をいただいたことから、丁寧な状況把握・対応・説明を行い、生徒の理解を重ねるより良い指導が展開できるよう、校内研修体制の充実を図る予定である。